

## 試験研究（中間）評価整理表

意見整理表2(中間評価)

試験研究機関名 林業研究センター  
所管グループ 研究開発グループ

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	外部評価アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期		
1	21世紀の豊かな森林、活力のある林業・木材産業づくり	優良品種の選抜・創出及び育種技術の確立	花粉の少ないスギの育種	林業面からの対応として、本県に適した成長と優良な材質を併せ持つ花粉の少ないスギ品種の創出を目指す。	本県精英樹の花粉の有無を確認するとともに、県内で花粉の少ないスギを探索する。また、花粉の少ないスギと本県の精英樹との交配により、本県に適した花粉の少ない品種を創出する。	平成13	平成17	B	・苗木の育成期間短縮手法の利用により、他の樹種での課題解決を行い、多様または自然本来の状態の維持への取組の可能性もある。
2	21世紀の豊かな森林、活力のある林業・木材産業づくり	優良品種の選抜・創出及び育種技術の確立	マツノサイセンチュウ抵抗性育種	マツノサイセンチュウ抵抗性マツを母材とした交雑により、さらに優れた抵抗性マツを創出する。	本県及び東北各県の一次検定合格木同士や、新たに選抜する抵抗性マツとの花粉交配により、優れた抵抗性マツを創出する。	平成13	平成17	B	・抵抗性マツの創出技術開発のために、その増殖技術を確立することは不可欠であり、育成に時間がかかるため継続する必要性はある。
3	21世紀の豊かな森林、活力のある林業・木材産業づくり	病害防除技術の確立	ヒノキ漏脂病の防除	ヒノキ漏脂病は生枝打ちによって被害の軽減が認められるが、枝打ち方法によっては被害の発生が認められるため、枝打ち方法と被害発病の関係性を明らかにし、発病防止に資する。また、被害実態を明らかにする。	生枝打ち方法と被害発生の状況を調査する。また、被害の実態調査を実施する。	平成13	平成17	C	・改善点が示されている。 ・経過観察と被害実態調査に集中することは合理的である。
4	21世紀の豊かな森林、活力のある林業・木材産業づくり	食用きのこの育種	シイタケ優良品種選抜	有用な遺伝的性質を有するシイタケ育種母材を確保するとともに、栽培者の所得向上に寄与することのできる品種を作出する。	菌床栽培用品種等の選抜を行う。	平成13	平成17	C	・改善点が示されている。 ・優良品種の選抜という成果が得られており、栽培技術課題と統合して検討することは合理的である。 ・所得向上のために二次選抜が必要であるとのことであれば、よろしいと思いますが、品評会などではかなり優れた品質の作物が並んでおります。効率的に願います。
5	21世紀の豊かな森林、活力のある林業・木材産業づくり	食用きのこ生産技術の開発	シイタケ菌床栽培技術	ロス率を軽減する栽培技術を開発し、シイタケ菌床栽培の安定化に資する。 また、市場性の高い子実体を生産する技術を確認し、生産額に占めるコスト率を低減する。	生産現場から収集した発生異常菌株の遺伝分析と環境分析を行い、安定生産技術を開発する。 また、販売単価向上のための培地管理技術を開発し、コスト率の低減を図る。	平成13	平成17	B	・種菌に最適な菌床栽培技術の確立には、不安定要因の科学的解明が不可欠であり、大学等との連携も必要である。 ・経験とカンから科学的技術へ、安定した農業経営のために、技術を確立してください。
6	21世紀の豊かな森林、活力のある林業・木材産業づくり	野生資源生産技術の確立	有用野生資源の探索	本県内で食用、または民間療法薬として用いられる山菜・きのこの等の野生資源について、食品としての三次機能(生体調節機能)等を明らかにし、山村又は中山間地域における産地化の可能性について検討する。	本県内で食用、または民間療法薬として用いられる山菜・きのこの等を試料とし、これらの抽出液を、疾病のモデル細胞である各種培養細胞に添加して食品としての三次機能(生体調節機能)を明らかにする。	平成13	平成17	C	・改善点が示されている。 ・食品としての三次機能等の評価を科学的に行うためには大学等との連携が必要と思われる。資源を絞り検討することが不可欠である。 ・付加価値を消費者は求めています。多くの情報を発するのはよいことだと思います。健康に関する関心も高いと思われまますので、期待します。